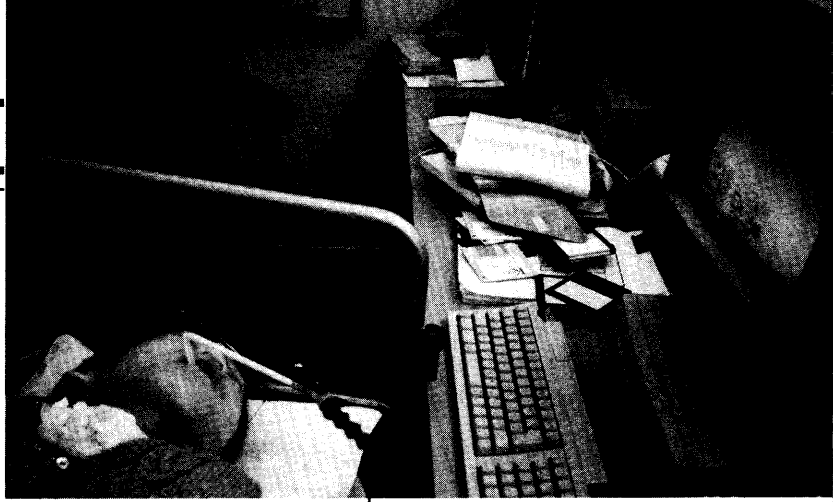


iida



飯田です

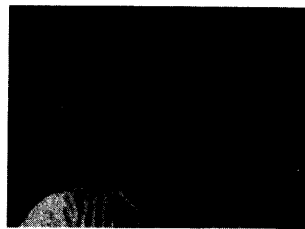
飯田君の作品（パズル）は・・・  
ぼくが高校一年生の時に美術の時間で作ったジグソーパズルの絵です。  
付けて切り取りました。  
細い線は切り離れた所です。



▲呼吸スイッチを使って、自分でカメラのシャッターを切る

絵を板に張り

hukada



深田さんは・・・

私の夢

高3 深田夏美

なぜ みんなは歩けるのだろう  
なぜ うまく手が使えるのだろう  
私だって手もある足もある  
どうして歩けないのだろう  
思いどろりに手が動かないのだろう  
一日でもいい みんなと同じように  
私の足で この足で一歩一歩ゆっくり  
歩いてみたい そして おもいきり走ってみたい  
手も思いどろりに動いたら  
体いっぱい喜びを感じたい  
夢でもいいから...

うなことを、いくつかまとめてみました。

●WWWを使えば、比較的容易に、児童・生徒の作品を世界に向けて公開することが可能になる。これは、児童・生徒にとっては、「世界」という大きな作品発表の場を得ることを意味し、大きな励みになる。また、これとは逆に、世界中の情報に接することも可能になる。そこで自分に関心のあるものを見つけたら、E-Mail(電子メール)・NetNews(電子ニュース)などの機能を使って、さらに詳しい情報収集ができる。

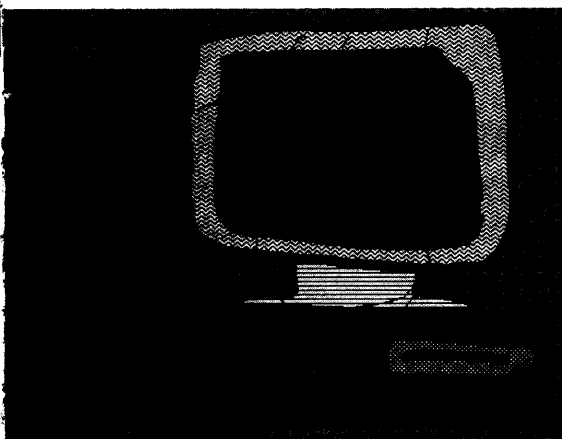
●養護学校の中の出来事は、なかなか「外部」には伝わりにくい。WWWのホームページを作成し、それを発信することで、学校自体を、保護者・地域・世界に向けてオープンなものにすることが期待できる。

●本校の通学区域内および隣接区域には、筆者がかかわっている障害児・者関係の草の根ネットだけで、トーコロ・杉並こと、世田谷ストリート・みんなのねが

いネット・府中養護ネットと、5つのネット局が開設している。これらが、将来、なんらかの形でインターネットに接続すれば、まさに、インターネットを使った世界に開かれた地域ネットワークが実現できる。

伊藤 守(いとう まもる)

東京都立光明養護学校教諭



サポートが得られ、やっとのことでインターネットを利用できる環境が調いました。もし、こういったサポートが得られず自力で……という状況は、想像さえすることもできません。

しかしながら、こういった多くの問題があるにもかかわらず、コミュニケーション・ツールとして、あるいは情報収集・発信のため、作品発表のためのツールとして、インターネットを必要としている児童・生徒——特に、体に障害のある児童・生徒がたくさんいることも確かだと思えます。筆者らの小さな試みが、少しずつその問題点を明らかにしていき、より多くの人がある恩恵をより容易に受けられるようになることを願っています。最後に、インターネットに期待できそ